

I 大学は今

■幹事長就任挨拶

井戸田 秀樹 教授 (S58)



5月17日(土)、母校で開催された光鯨会評議員会にて、水谷教授から幹事長を引き継ぐことになりました。宮野秋彦先生、小野徹郎先生、水谷章夫先生、歴代光鯨会幹事長職の

大先輩方のお顔を思い浮かべるとあらためてその重責に身が引き締まる思いです。

かつて電子メールやSNSのような高度情報伝達の手段がまだなかった頃、定期的で開催される同窓会の集まりは旧交を温める貴重な機会であり、また同業種に身をおく者どうしが旬の情報交換を行う貴重な機会もありました。しかし、時間、場所を問わずあらゆる情報がやりとりできる今日、同窓会にはその役割として今までにない新たな付加価値を模索する必要があると考えています。事

務局として運営費の不足に頭を悩ませていた頃は会費納入率の向上というテクニカルなことしか考えることができませんでしたが、今後は同窓会本来の役割を再認識し、今の時代における新しい光鯨会のあり方を考えていくことが重要だと思っています。

名工大は来年で創立110年を迎えます。社会で活躍されている多くの先輩方と伝統に支えられ、名工大は今日まで産業界のリーダーを数多く輩出してきましたが、社会の要求に合わせた学部・大学院の再編や、今検討が進められている6年一貫教育の導入など時代に対応した変革も積極的にすすめています。光鯨会においても、100年を超える伝統を汚さぬよう、また次の100年に向けてのさらなる飛躍につながるよう、同窓会としての新しい魅力に向けて挑戦していきます。光鯨会会員の皆様のさらなるご支援、ご指導、ご鞭撻をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

■母校近況報告

河辺 伸二 教授 (S59)

今年度の大学院社会工学専攻副専攻長を務めることになりました河辺伸二です。大学院社会工学専攻は、建築・土木・経営の旧3学科に所属する先生方で構成しています。この他、産業戦略工学専攻と創成シミュレーション



工学専攻に所属している建築の先生方もいます。大学院は、47名が入学しました。

学部の建築・デザイン工学科の近況です。学科長は井戸田秀樹教授、副学科長は井上雅弘教授です。この4

月に堀越哲美教授が退職され、愛知産業大学長に着任されました。建築プログラムは教授9名、准教授4名、助教3名、デザインプログラムは教授2名、准教授4名、助教1名となりました。

建築・デザイン工学科は84名の新1年生が入学しました。うち女子学生は28名で、学科全員の3割です。新1年生は、2年生に上がるときに、建築プ

ログラムとデザインプログラムに分かれます。

5月中旬時点の学部4年生の就職状況は、公務員志望を除いて、8割ほどの内定です。大学院2年の状況は、ほぼ全員内定です。

現在4号館が東門近くに建設中です。鴻池組の施工です。8階建ての建物の中に、建築・デザイン工学科のデザインプログラムの先生方の研究室と教室等の入居が予定されています。

名古屋工業大学は、4月から旧計測工学科出身の鵜飼裕之先生が学長になりました。新体制のもと名古屋工業大学が益々発展するように、建築・デザイン工学科の我々も頑張っています。

大学改革関連の一環として、大学院一貫教育を中心にした6年制のプログラムの新設が、平成28年度を目途に検討されています。

学生の質も興味も多様化し、従来の教育システムが空回りするような場面もあります。入口(入試)と出口(就職)の再考も含めて、伝統ある名古屋工業大学の存続を図っていきます。

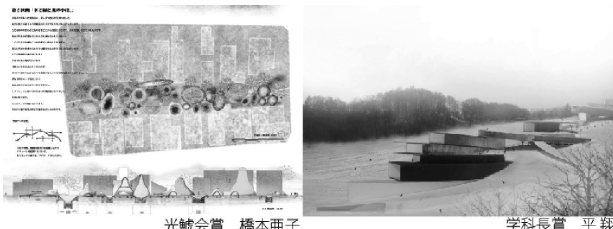
■学生の活躍

夏目 欣昇 助教 (H5)

■建築系学生の活躍—— H25 年度光鯨会賞は橋本亜子さん「ハレノモリ」が受賞しました。千種区天満緑道に 36 の山型モデルを配置し、子どもの気づきにあふれた光景を作り出す提案です。ほかを見渡すと、人と空間との関係をテーマとした時流に沿う力作が多いという印象を受けました。

日々研鑽を重ねて得た技量と見識を試す場である設計コンペにおいて今年度も良好な成績を修めました。愛知建築士会学生コンペでは第 1 回から昨年の第 8 回目まで本学科学生が連続入賞しています。全体的に、近年はグループ応募が多い傾向にありましたが、日本建築学会と JIA 東海支部の設計競技に入賞した廣澤克典君、リアルハウス設計コンペ入賞の大岩良平君など、個人応募での活躍が目立っています。研究論文方面では、日本建築学会東海支部学生優秀講演賞を本学科から末國明宏君をはじめ 7 名が受賞しました。

■デザイン系学生の活躍—— 平翔君の「交錯するゲレンデ＝ミュージアム」が学科長賞を受賞しました。久保有理子さんが宇都宮市の仕掛け絵本、藏野洋美さんが加子母のお散歩マップを卒業制作で扱い、JIDA 中部ブロック賞を受賞しました。宮井智尋君がオリンパス空想カメラデザインコンテスト優秀賞獲得するなど、多彩なジャンルにおいて創造性にあふれた提案を発信しています。



光鯨会賞 橋本亜子

学科長賞 平翔

■NAGOYA Archi Fes 2014 中部卒業設計展——

今年 3 月、中部の建築系大学を対象とした合同卒業設計展が新たに企画開催されました。前年度までの東海地区卒業設計合同展「dipcolle」を発展させたものです。加藤正都君(当時学部 3 年生)が実行委員長を務め、多数の本学科学生が運営に携わりました。約 70 の応募作品を集めて、吹上ホールにて展示会と公開審査会が開かれました。

第一回目となる今回は、3 位&恒川賞を獲得した佐野智哉君をはじめ、小室暁子さん、平翔君、大矢知良君が入賞しました。審査の様子をまとめた書籍の発売も予定されています。100 名近くの学生ボランティアによって運営された本大会は、中部地区の建築学生間にこれまでにない大きな交流の輪を築ききっかけとなりました。今後この輪がより確かなものとなることが期待されます。

卒業設計・卒業制作

光鯨会賞 橋本亜子さん H26 卒
学科長賞 平翔君 M1

■第 21 回 JIA 東海学生卒業設計コンクール 2014

銀賞 佐野智哉君 M1
佳作 田中恵君 M1

■NAGOYA ArchiFes2014 中部卒業設計展

3 位・恒川賞 佐野智哉君 M1
生田京子賞 小室暁子さん M1
富岡義人賞 平翔君 M1
藤村龍至賞 大矢知良君 M1

■福岡デザインレビュー 2014

島田賞 佐野智哉君 M1

■JIDA 中部ブロック | 日本インテリアデザイナー協会

中部ブロック賞 久保有理子さん M1
中部ブロック賞 藏野洋美さん M1

■CP | 中部インテリアプランナー協会

学生賞 平翔君 M1

■日本デザイン学会

奨励賞 平翔君 M1

■第 10 回団地再生卒業設計賞

奨励賞 鈴木智也君 M2

■2013 年度日本建築学会設計競技

タジマ奨励賞 廣澤克典君 M1
東海支部入選 鈴木翔麻君 M2
東海支部入選 戸谷奈貴君 M2
四国支部入選 加藤千尋さん M1

■第 30 回 JIA 東海支部設計競技 学生の部

金賞 廣澤克典君 M1
銅賞 石井三保子さん M2

■第 1 回リアルハウス設計コンペ

銀賞 大岩良平君 M2
入選 石井三保子さん M2

■第 1 回ビュリック学生アイデアコンペ

佳作 木村陽子さん H24 卒・大村拓也君 H24 卒

■第 8 回愛知建築士会学生コンペ

優秀賞 内藤裕太君 H23 卒・木田脩太君 M2・福元達也君 M1・榊原崇文君 B4
戸谷奈貴君 M2・廣澤克典君 M1
佳作 鈴木翔麻君 M2・千葉基博君 M2・福島英和君 M2
佳作 松本拓哉君 H24 卒・福田晃司君 M2

■リッチライフデザインコンペ 2013

リッチライフ賞 鈴木翔麻君 M2・鈴木智也君 M2・戸谷奈貴君 M2

■あなぶぎスタイルコンペ 2013

特別賞 鈴木翔麻君 M2・鈴木智也君 M2・戸谷奈貴君 M2

■第 2 回大東建託賃貸住宅コンペ

入選 青山享央君 H24 卒・大村拓也君 H24 卒

■オリンパス空想カメラデザインコンテスト

優秀賞 宮井智尋君 H24 卒

■第 1 回ショッピングセンター・リポジショニング・コンペティション

特別賞 平翔君 M1

■関西建築系大学合同講評会

優秀賞 小林洸至君 B4
佳作 田中匠哉君 B4

■JIA ゴールデンキューブ賞 2013/2014

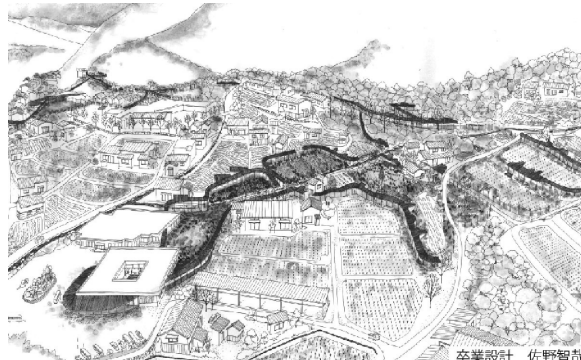
組織部門特別賞 758 でまえワークショッパーズ | (代)田中匠哉君 B4



卒業制作 久保有理子



タジマ奨励賞 廣澤克典



卒業設計 佐野智哉



展示・巡回審査風景

公開審査会風景

II 卒業生は今

■本部

田中 俊洋 (H9) (株) 奥村組

奥村組に入社して13年間現場管理をしてきましたが4年前より営業部に異動となりました。

昨年より岡崎市の火葬場建替PFI事業の提案コンペに携わっており、1年以上かけた案件を無事に受注しました。事業方式はBT0方式(火葬場を設計建設し、市に移転して民間側で15年間運営するもの)です。当グループは8社でコンソーシアムを組成し、提案書作成にと目まぐるしく提出日まで日が過ぎました。今回の参加チームは、当グループを含めて4グループ参加しており、我々は価格点・提案点ともに一位をとり、無事に事業契約の締結となりました。

現在はSPC(岡崎メモリアルパートナーズ(株))を設立し、SPC発注の元、実施設計を進めている

藤田 健一 (H17) (株) 伊藤建築設計事務所



入社して9年、構造設計者として様々な建物の設計監理に取り組んできました。昨年末には、設計から数えて約2年半がかりとなった、町産木材を構造材に使用した設楽町新庁舎が竣工しました。それまで鉄骨造の設計がほとんどだったため、木

金子 翔太 (H20) トヨタホーム(株) 商品開発部 工法開発G

入社後正式配属以来、住宅の断熱・換気に関する性能開発・評価を業務としてきました。最近では住宅のゼロエネルギー化(ZEH)が政府目標として示されたことを受け、エネルギーに関する知識をつけながら、どうしたらZEHを達成できるかを検討しておりました。

一般的に、住宅メーカーは独自にシステム化された工法を持っています。そのような工法は一度開発すると、しばらくの間はその工法を使い続けていくため、大掛かりな工法開発はあまりないのですが、ZEHを含め今後の魅力的な商品づくりを目指し、十数年ぶりの工法開発検討を進める現部署に今年の4月より配属となりました。

段階で、物価上昇による建設費の高騰への対応を苦勞しながら、事業を進めております。



【火葬場パース】

RC造地上2階、延床約5,000㎡、火葬炉14基

構造に関わって構造設計の奥深さと自身の勉強不足を痛感しました。告示の改正により今後増えるであろう木造建築物の設計にこの経験が活かせるように努めていきたいと思ひます。

現在は事務所、店舗、工場、倉庫など様々な建物の設計監理を行っていますが、まだまだ覚えるべきことが多くあると感じています。また、技術は日進月歩、研究が進めば新たな材料や設計法が世に出されるため、学ぶことに終わりはないのだろうとも思ひます。日々の仕事に追われながらも新たな知識を身につけて、建築主や意匠設計者の多種多様な要望に応えられるよう、これからも頑張っていきたいと思ひます。

これまでの部署はどちらかというと研究開発に近く、ひとつのことを深く追求していく業務でしたが、新配属された部署は部材設計はもとより、工場生産・現地施工・CAD等全てに対して、幅広い知識が求められます。恥ずかしながら、業務としてほとんど経験してこなかったディテール設計やシステム展開のためのバリエーション検討など、入社7年目にして新たに学ぶことばかりの毎日です。早く力をつけて理想の商品を実現できるように日々邁進していきます。



上田 寛二 (H20) 愛知県

愛知県庁に建築職として入庁して5年目になります。最初の4年間は県営住宅の建設や県立高校の耐震改修といったいわゆる事業系の部署に在籍しておりましたが、現在は建設事務所で建築行政の業務を行っております。主な業務内容は都市計画法に基づく開発及び建築許可や建築基準法に基づく検査及び許可等です。一市二町を担当しており、週に一度各役所に駐在してそこでも来庁者の相談に応じております。

初めての建築に係る許認可業務を行っている中で二つの難しさがあると感じております。まず一つ目は、他に全く同じ条件のないそれぞれの案件について関係法令等に基づき適正で公正な審査を行うことの難しさです。過去の同様な事例につい

■関東支部

石附 聡 (H6) (株)三菱地所設計

大学を卒業してから早20年が経ちました。早く実務を身に付けたい思いから、学卒で就職先を探しました。幸いにして東洋建設の設計部門に採用頂き、約12年間勤めました。その後、三菱地所設計に中途採用頂き、現在に至っています。

現在は、高校校舎や信用金庫の支店の設計監理他を行っています。三菱地所設計は事務所ビルしか設計してないのではないかと、思われているかもしれませんが、全くそんなことはありません。とは言いながら、私が三菱地所設計に入社してまもなく担当となった事務所ビル「新宿イーストサイドスクエア」を紹介します。

敷地は新宿副都心の東端に位置しており、様々な都市機能・都市スケール・人々が混在する場所です。そのような多様性が共存する立地を活かし、

ではどのように取扱ったのか、またその取扱いは対外的にも説明ができるものなのかその都度慎重に判断しなければなりません。

二つ目は都市計画法に触れることのない一般の方に対して、法令とその制度についていかにわかりやすく説明し理解して頂くかといった難しさです。例えば“どうして自分の所有地であるのに物置すら置くことができないのか”といったような相談にわかりやすく説明し理解を頂くのには経験が必要であると感じます。

県職員は幅広い知識が必要であると日々常々感じております。早期に浅くとも広い知識を習得し、それを少しずつ深い知識にしていけるよう今後も全力で業務に励んでいきたいと思っております。

快適で魅力ある都市環境・景観を創出することをコンセプトとしています。そのコンセプトに相応するかのようにより多様な事業者・設計者・施工者も多様な人たちが集まりましたが、プロジェクトの実現に向かって一致団結して進めることができた非常に思い入れの深いプロジェクトです。



工藤 利昭 (S61) 鹿島建設(株)

名工大を巣立って27年。月日の経つのがどんどん早くなっているように感じます。皆様にはお変わりありませんでしょうか。

光鯨会関東支部の役員は14年目、名古屋工業会東京支部の役員は7年目に入りました。名古屋工業会ではエクスカッションを担当し、毎年5月に日帰りのバスツアーを企画、当日は引率・会計・カメラマン、後日、支部幹事会への収支報告や参加者へのアルバム送付などをこなしています。90、80歳台の大先輩方も多く参加され、今年51歳になる「若輩者」の私は元気をいただいています。

仕事の方は、卒業以来、2年間の留学期間を除き、ゼネコン(鹿島)の構造設計部門に所属し、建物の新旧・用途にこだわらず活動を続けています。昨年は22階建マンションを筆頭に12棟が竣工を

迎えましたが、今年は新築は20階建マンションなど3棟が建設中で、その他5棟の耐震改修を行っています。内4棟は11階~12階建分譲マンションで、7年かけて300戸の合意形成を図りながら、耐震診断・補強案検討・実施設計を行ってきました。残り1棟は10階建事務所の免震改修です。江戸時代初期から都心で事業を営んできた施主と14年間検討を重ねた成果が実りつつあります。

3年前からは、東京都防災・建築まちづくりセンターから委嘱を受け、耐震改修計画評定委員会の末席で委員としての活動も行っていきます。名工大時代を含め、これまでに得られた知識・経験を総動員して審査にあたっています。

建築の世界は広く・深く、厳しいときもありますが、前を向いて頑張っていきたいと思っております。

様々な出会い

発注者が私と同年でどちらもプロジェクトを任されていました。どんなマンションを造り、どういう入居者層を設定するか、米国人によるプレゼンにも出席し、販売の希望も吸い上げ設計します。彼が売り手の観点でアイデアを出せば私が設計的な答えを具現化するそれを約5年掛け完成させます。竣工前家族を招待し、自分の『地図に残る仕事』を見てもらいます。エキサイティングないい仕事でした。



パークコート赤坂ザタワー

新しい視点

日本の高齢化のスピードはアジアの中でも注目を浴び需要と供給のバランスが取れていないのも高齢者向け住宅市場の現状です。現在私の中でのテーマは「引き算の介護・足し算の計画」です。高齢者の残存能力を最大限活かし機能維持が可能な（造り過ぎない）様に設計し、建物で一日中過ごすことになっても何か元気をもらえるような仕組みを発注者と一緒に造っています。



帯広 サ高住「ほくと」(仮称)

平成9年に博士前期課程を修了後、清水建設の設計部門に入社し、早17年が経ちました。入社時は毎日が超繁忙でいつまでこんな生活が続くのかと思っていましたが、いつしか日常になってしまいました。入社当初は研究施設や生産施設を、その後、九州支店へと異動し、宿泊施設や商業施設を、そして現在は再び本社にてオフィスビルを中心に設計を行っています。ゼネコンの設計部ということで、デザインのみならず、工期、コスト、工法まで含めたトータルな視点で提案を行っています。デザインの潮流、技術、社会を取り巻く環境などは日々変化しており、それらを敏感に感じ取りながら提案を行う必要があります。多くの難問が立ちはだかり、ひとりでは到底解決できないことだらけですが、たくさんの方々に関わり合い

■関西支部

1985年に大学院を修了後、鴻池組に入社し、29年が経過しました。その間、主に設計部門に所属し、建物の構造設計に携わってまいりました。

実務設計者としては、建築とは言えない架台のようなものから、集合住宅、大規模なショッピングセンター、超高層オフィスまで、多様な建築物の構造設計を行ってきましたが、その間に、二度の大地震を経験しました。一度目の阪神大震災は、勤務地近傍での災害ということもあり、被害調査や補修・補強工事の提案などに走り回った記憶があります。二度目の東日本大震災には、業務でかわる機会はありませんでしたが、調査時に見た自然災害の容赦のない爪痕には、言葉がありませんでした。技術者として何ができるか、深く考え

ながら問題を解決し、作品をつくりあげる一連の行為は、入社17年経った今でも醍醐味であります。

社内・社外を問わず光鱈会のネットワークを頼りにさせていただいていますが、諸先輩方の知恵や後輩達からの刺激を糧に、これからも作品づくりに励んでいきたいと思っています。



させられる経験であったと思います。

今期より、関西支部の事務局を拝命することとなりました。卒業後には、予想もしないような出来事もありましたが、何とかそれを乗り越えることができたのは、諸先輩方からのご指導、ご助言があったからだと思います。これを機に、先輩より受け継いだものを後輩に伝えていければと考えております。



津波で転倒した建物 (2013.9撮影)

中尾 勝悦 (S59) 中尾総合建築設計事務所 代表

卒業以来30年、設計監理一筋に歩んで参りました。オイルショック末期の就職難～豊かに感じたバブル経済～設計監理を担当し購入したマンションでの阪神淡路大震災罹災などを体験し、2001年に独立して今に至っています。

仕事の規模は、勤めていた時の1/10程度と成り、工事費にして数億～数千万の建物が主で、工場・マンション・クリニック・オフィス・住宅・密集市街地整備やマンションの大規模修繕など多義に渡ります。この近年は、保育所・老人福祉施設の新築や改修が多く、リピートのクライアントや、常時2～3名の若いスタッフに支えられています。

光鯨会関西支部の幹事は、'98年(37歳)から務め、名工大フォーラム('99年奈良)や名工大建築系学科100年の歩み展('06年大阪)などに携わ

竹内 健一 (H3) (株)フジタ

関西とは縁のなかった私が、入社4年目に関西に転勤して早20年。阪神淡路大震災後の復興住宅、物流倉庫、再開発等の意匠設計者としてこの地で厳しく育てていただきました。

2000年に当時の上司に誘われ企画営業部に異動、より川上の立場でコンペ、企画提案、開発案件等様々な営業に携わり、設計の時以上に充実した日々を過ごしています。昨年より企画営業部の責任者として部の運営と、引き続き「図面の描ける建築営業マン」として顧客満足を追っています。

40歳過ぎから、光鯨会に参加するようになり、名工大OBの皆様と交流する機会を頂き、いつも刺激を得ています。また皆様にアドバイスを頂きながら営業に取り組んでいます。

りました。何の後ろ盾もなく事務所を構えていると、光鯨会の面々は実に頼もしく、業界での煩わしさを一掃する抑止力と成っています。

8年前より始めた摂南大学の非常勤講師では、設計演習を受け持ち、初々しい学生さん達に、自身の苦しくも楽しい曙通り時代を映しています。

50歳を過ぎた辺りから、活躍中の同級生と会う事も多く、歳を重ねる楽しさを感じています。



1992 シーアイマンション須磨 EXCEED 2014 マザーシップ西宮北口保育園

会社は今どんどん海外に進出しており売上の2割が海外という状況です。私もいつかは海外の可能性はあるわけですが、異国の様だった関西に今ではどっぷりつかり、また甲子園に住んでいるため「燃えよドラゴンズ！」より「六甲おろし」ばかり聞く毎日を過ごしております。



2010年改修の甲子園球場、蔦がずいぶん伸びてきました。

松井 孝樹 (H14) 清水建設(株) 関西事業本部 生産計画部

2005年に大学院を卒業後、清水建設に入社し、6年間の東京勤務を経て、2011年3月から関西事業本部に転勤してきました。現場監督として東京で5件の現場(マンション4件、格納庫1件)に携わり、京都では現在までに2件の現場(小学校1件、大学1件)に携わり、現場の大小に関わらず「ものづくり」の難しさや楽しさを肌で感じてきました。その後、見積案件のVE関連業務等に携わりました。

今現在は、社員組合の役員として1年間、組合員の為に会社と協議をする立場にあります。昨今の建設業界は厳しい労働環境にあり、今後もオリンピック等により益々繁忙度が増すことが予想されます。また、深刻な労働力不足等の問題で組合員への負担が大きくなる傾向にありますが、組合

員から本音を聞き出し、組合員一人一人が少しでも「働きがい」を感じられる様な環境作りを目指して行きたいと思えます。『子どもたちに誇れるしごとを。』に、恥じない会社にして行けるよう頑張ります。



ザ・パークハウス三軒茶屋ｸｰ



京都産業大学新7号館

Ⅲ 光鯨会支部は今

■会長挨拶

岡本 賢 (S39)



光鯨会では近年様々な企画をとうして会員の交流が活発に行われて大変喜ばしいことと思います。しかし若い会員の方々の参加が相変わ

らず少なく会費納入率も中々改善していきませんが、その為に関東支部からの提案で光鯨会若手の会を立ち上げることとなり50歳以下の会員の有志の方にキーメンバーになっていただき、講演会、シンポジウム、建築視察、建築工事現場見学等の様々な企画を検討して頂いて多くの会員に呼びかけて参加者を募る事によって多くの交流が生まれ、人脈が広がることにつながるのではないかと期待しています。是非沢山の若手の方々の参加をお願いいたします。

又OBでスタートの関戸副会長のご厚意で東

京駅八重洲口にあるスタートのオフィスの一角をお借りして名工大建築デザイン学科ネットワークキャンパスを開設することとなり8月に開所式が行われます。名工大学生のインターンシップ制度に活用してもらおうと共に建築デザイン学科の東京での拠点として、又様々な情報に接する場所として機能できればと思います。同時に若手の会の活動拠点としての意味もあり大きな期待がもてる事になりました。鈴木禎次賞も3回目が行われ多くの応募作品が集まり建築界にその存在感を増してきました。ネットワークキャンパスを通じた活動が広くいきわたって名工大建築デザイン学科の名声益々大きくなっていくことを願っています。

本部/〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学建築・デザイン工学科 (052-735-5517)
会長: 岡本 賢 (S39) 幹事長+連絡担当者: 井戸田秀樹 (S58)

■前幹事長退任挨拶

水谷 章夫 教授 (S51)



今年の5月17日(土)の光鯨会評議員会にて、幹事長退任が承認され、その後の総会で岡本会長より幹事長交代の報告があり、了承されました。

宮野秋彦先生が初代幹事長として、長いこと

光鯨会発展のためにご尽力され、その後小野徹郎先生が幹事長職を引き継ぎ、平成18年より、この伝統ある光鯨会の要となる幹事長職の重責を担うことになりました。就任間もないころの解決すべき問題は、毎年発行する光鯨会会員名簿に関することでした。具体的には、名簿の記載内容と個人情報保護法との係わりに基づく名簿発行の可否。また、名簿発行の際の広告費が大幅に減少し、名簿発行が光鯨会財政をひっ迫するようになった。そして、会員の会費納入額が徐々に減少し、単年度収支で赤字傾向が続くようになった。光鯨会会長(当時)の宮野先生が中心となり、財政の危機的状況の脱却を図ることを主として議

論し、名簿印刷が財政ひっ迫の大きな原因であることより、経費が殆どかからないCD版発行に変更することに決まりました。宮野先生の決断のお蔭で、単年度収支は黒字化する傾向となりましたが、今度は、会費納入率の極端な減少が新たな問題として浮かび上がってきました。納入率向上対策として、大きなヒットは、井戸田新幹事長の発案による学生会員を新たに設けたことです。これで学部新生からの会費納入額が収入の面でプラスに働くようになりました。また、最近では、大学院生を対象とした就職ガイダンスの際に、卒業生の活躍から始まり、OBの存在のありがたさを懇切丁寧に説明し、会費納入して光鯨会会員であることを実感し、光鯨会への愛着、誇りを持つように指導しております。

以上、退任の挨拶として、お金の話が主となりましたが、日々は光鯨会のために集まって頂きました、気心の知れた先輩・同期・後輩のメンバーに囲まれ、和気あいあいとした環境、雰囲気の中で充実した任期を過ごすことができました。ここに、皆様の温かいご指導・ご鞭撻を頂きましたこと、篤くお礼を申し上げます。

■各支部長挨拶と総会・見学会の報告

小山 裕康 (S54) 本部副幹事長 トヨタ T&S 建設 (株)



今年度より副幹事長として、本部の運営にあたることになりました。会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

本部では、この5月17日に春の見学会、評議会、総会、懇親会が開催されました。

見学会は、昨年復元されました揚輝荘の聴松閣を見学しました。汗ばむくらの陽気の中、ベンガラ色の外壁や新緑の庭園が映え、屋内では当時の留学生が描いたインド情緒あふれる壁画等を拝見しました。参加者は39名で、80歳を超える大先輩方のご出席もありました。

評議会・総会では、今年度より現役学生を光鯨

会の会員として加える議案が承認されました。現役も加わり楽しい会になることを期待しています。

懇親会は学内の学生会館で行われ、学生10名を含めて63名の参加がありました。懇親会冒頭の乾杯では、91歳になられた宮野大先輩から、これまで支えてくれた諸先輩があつて初めて今の自分があることなど、明治から引き継がれてきた光鯨会の意義を改めて教えて頂き、大切にしていかなければならないという思いを強く心に刻みました。皆様本会への参加をよろしく願います。

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学建築・デザイン工学科 (052-735-5517)
副幹事長 小山 裕康(S54) 副幹事長 森本 泰崇(S53)
副幹事長 里川 幸夫(S54) 連絡担当者 井戸田秀樹(S58)

吉井 正行 (S58) 関東支部長 清水建設(株)

関東支部では4月23日に支部役員会を開催し、平成26年度の支部役員を決定いたしました。

当日の支部役員会において、今年度の関東支部総会を、11月21日(金)に例年どおり大手町サンケイプラザで開催することに決めました。新入会員を含め、皆様の積極的な参加を期待しています。

また、昨年度に引き続き名古屋工業会支援のために、11月8日(土)に開催される名工会関東支部総会に支部役員から10名出席することにいたしました。今後とも名工会の支援を続けていこうと思っています。

『ネットワークキャンパス in Tokyo』が設立され、第1回目が、8月28日～30日に開催されます。これは、日頃、東京に来る機会の少ない名工大学生に、東京で建築を学ぶ機会、刺激を得る機会を提供しよう、という趣旨で諸先輩方のご尽力により設立されたものです。講演、現場見学、作品見学、設計演習などが企画されています。関東支部としても、積極的に協力し、学生を温かく迎えることにしています。

さて、東京は、2020年のオリンピック開催が決定しましたが、数年後に一気に始まるであろう建設ラッシュに備えて、ひっそりと息を潜めているような、エネルギーを蓄えているような感がありますが、労務不足、資材高騰と本当にオリンピックを乗り切れるのかという不安がないわけではありません。

また来年は、光鯨会全国大会が関東で開催予定です。今までの関東での全国大会と違った企画ができるものかと、前倒しで案を練るため支部役員会も例年より多く開き、開催方法や、企画について、ディスカッションをしていく予定です。

〒105-8370 東京都中央区京橋2-16-1
清水建設(株) (03-3561-3680)
支部長 吉井 正行(S58) 副支部長 永田 敬雄(S45)
副支部長 鹿島 孝(S59) 連絡担当者 大柳 聡(H18)



髙田 守弘 (S52) 関西支部長 (株) 鴻池組



今年度から関西支部長を務めます髙田守弘です。昨年11月、紅葉真っ只中の京都国際会館で支部総会が行われ、副支部長、事務局も一新されて、新しい体制でスタート致しました。若い会員の拡大と活発な支部活動を展開していきたいと考えています。

関西支部では、堂島の中央電気倶楽部にてミニ講演会を兼ねた定例会を年5回開催し、会員相互の親睦を深めています。

第1回定例会は2月7日(金)、新任の事務局員全員による工夫を凝らした自己紹介を行い、また名工大キャンパスの今昔と題したスライドショーを懐かしく鑑賞しました。

第2回定例会は4月4日(金)、名古屋工業会大阪支部の木越支部長によるミニ講演会を行いました。木越支部長は土木の大先輩で、植樹で傾斜地を養生する環境エンジニアリングに携わっておられ、大変興味深いお話を伺いました。

第3回定例会は6月6日(金)、名工大の井戸田先生による「名工大建築学科の今と未来-次の100年に向けて-」と題したお話を頂きました。久しぶりに聞く母校の話は懐かしく、参加された皆様から様々な質問が飛び交う活発な会となりました。

今後は8月と10月に定例会を予定しております。そして、11月22日には六甲山頂で支部総会を開催します。年が明けると、阪神淡路大震災から20年を迎えます。この節目にあたって、六甲山頂から復興した姿を再認識する意味で六甲山で支部総会を行うこととしました。建築家の三分一博志氏の設計による新しい自然体感展望台、「六甲枝垂れ」の見学や、震災復興に当時ご尽力された大先輩のお話も伺う予定です。皆様、是非奮っての参加をお願い致します。

〒541-0057 大阪市中央区北久宝寺町3-6-1
(株) 鴻池組 藤澤 繁男 (06-6245-6315)
支部長 髙田 守弘(S52) 副支部長 黒田 龍二(S53)
連絡担当者(事務局) 藤澤 繁男(S53)